

2021年4月1日
月島機械株式会社
月島テクノメンテサービズ株式会社

京都市「鳥羽水環境保全センター下水汚泥固形燃料化事業」の
運営開始について

月島機械株式会社（社長：福沢 義之、以下「TSK」）、月島テクノメンテサービズ株式会社（社長：伊藤道夫、以下「TTMS」）は、月島機械を代表企業とする特別目的会社 株式会社バイオコール京都鳥羽を設立し、2018年5月に京都市（市長：門川 大作）と「鳥羽水環境保全センター下水汚泥固形燃料化事業（*添付参照）」（以下「本事業」）に関する契約を締結いたしました。

その後、下水汚泥固形燃料化施設の建設と運営準備を進めてまいりましたが、今般、同施設が完成し、4月1日より同施設の運営を開始することとなりました。

本事業は、下水汚泥の低温炭化燃料製造技術を用い、施設の設計・施工・維持管理・運営・燃料化物販売・石炭火力での混焼利用まで一貫体制で実施する、下水汚泥燃料化リサイクル事業です。これによって、長期安定的な事業運営を展開し、下水道資源の有効利用を促進するとともに、温室効果ガスの削減による地球温暖化防止に貢献することを目的としています。

本事業は、京都市が鳥羽水環境保全センター（京都府京都市南区上鳥羽塔ノ森梅ノ木1）において、バイオマス資源である下水汚泥から燃料化物を製造し、石炭の代替燃料として有価で供給する事業です。燃料化施設の設計・施工・維持管理運営・下水汚泥固形燃料の買取りを一括して民間事業者へ委託する DBO（Design:設計、Build:施工、Operate:運営）方式が採用されております。

今後は、株式会社バイオコール京都鳥羽が2021年4月より20年間にわたり、同施設の維持管理・運営および固形燃料の買取りを行い、固形燃料は、電源開発株式会社の石炭火力発電所等において石炭と混焼利用する計画です。

TSKグループは、下水汚泥を石炭代替燃料に転換し有効利用を可能とする“低温炭化技術”を活用し、地球温暖化防止に貢献する下水汚泥燃料化事業の普及拡大に向けて積極的に取り組んでまいります。

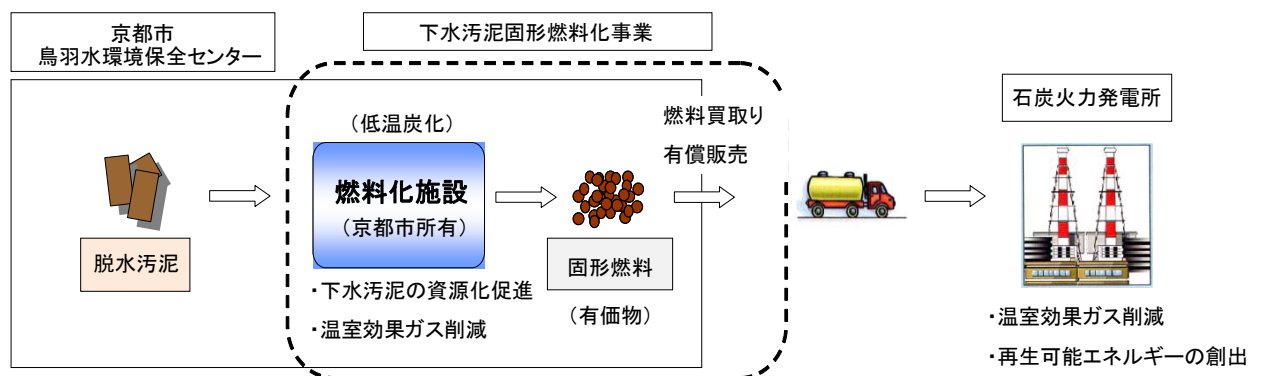


燃料化施設 外観図

鳥羽水環境保全センター下水汚泥固形燃料化事業の概要

1. 事業概要

本事業は、鳥羽水環境保全センター（京都府京都市南区上鳥羽塔ノ森梅ノ木1）内において、下水汚泥を炭化燃料化する施設を整備し、施設の維持管理・運営を行う。下水汚泥固形燃料は、電源開発株式会社等の石炭火力発電所において石炭代替燃料として有効利用する。



2. 施設概要

(1) 処理方式	低温炭化方式
(2) 施設能力	脱水汚泥 150t-wet/日×1基
(3) 計画汚泥処理量	脱水汚泥 49,500 t-wet/年
(4) 固形燃料製造量	約 6,100 t/年 (年平均生成量)
(5) 固形燃料性状	高位発熱量 約 16 MJ/kg
(6) 事業期間	設計・施工 2018年6月～2021年3月
	維持管理・運営 2021年4月～2041年3月(20年間)